

分割で製作されたコンクリート函体を洋上でジョイントする技術

設計・解析技術

海洋工事技術

I C T

リニューアル技術

水域環境技術

河川・湖沼工事技術

お客様のメリット

- 大型浮体構造物の建造に際しても、既存のドライドッグで製作可能な大きさで分割製作することが可能です。
- 既存のドッグを使用できるため、経済的です。
- 自由度の高い構造物を建造することができます。

技術の特徴

洋上ジョイント工法とは、海上空港、浮桟橋、浮道路などの各種大型コンクリート浮体構造物の建造に際し、ドックなどの既存施設でいくつかの分割エレメントを建造し、洋上に浮かべた状態でこれらを順次つなぎ、一つの大きな浮体構造物を造る工法です。

本工法の特徴は以下の通りです。

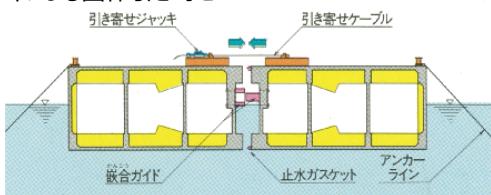
- ・ 分割エレメントを既存の施設で製作できるため、経済的な建造が可能となります。
- ・ 多少の波があってもジョイント作業が可能です。
- ・ ジョイント部は完全に一体化され、標準部と同様の剛性が得られます。
- ・ 構造物が大型化した場合でも短期間にジョイントすることができます。
- ・ 平面的な広がりを必要とする大型構造物でも配列接合が可能です。



函体着水・ジョイント状況

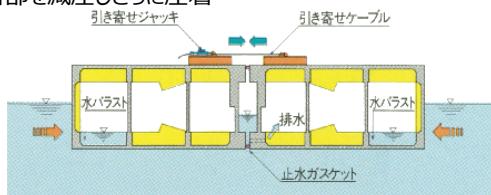
①函体の位置決め（面合わせ）

ジャッキによる函体引き寄せ

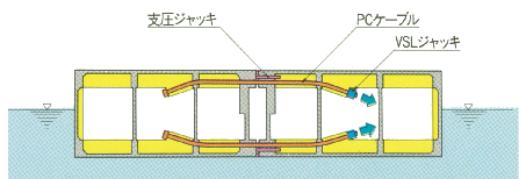


②接合部の水を排水

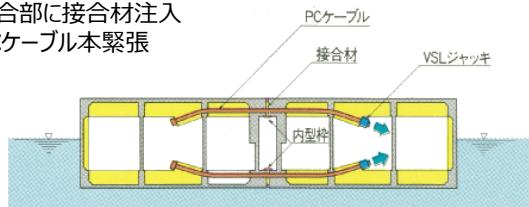
接合部を減圧しさらに圧着



③PCケーブルの一次緊張 引寄せジャッキ・ケーブル解除



④接合部に内型枠セット 接合部に接合材注入 PCケーブル本緊張



函体ジョイント手順

実績・事例

コンクリートバージ (125DWT)